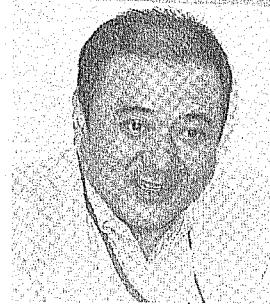


SASマニュアル改定へ



国土交通省自動車局の平井隆志安全政策課長(48)は20日、就任会見を行い、2003年に策定した睡眠時無呼吸症候群(SAS)対応マニュアルについて「内容で統一感に欠ける面がある」として、改定を検討していることを明らかにした。

安全政策課長 ■ 就任会見

精密検査まで流れ整理 チェック項目を明確化

監査・行政処分に関しては「しっかりと監査して厳正に対処する」と平井課長

易なスクリーニング検査から精密検査に至るまでの流れを整理する」ほか、各項目で特に重点的にチェックが必要な事項を明確にしたい」考えた。一方、2014年に改定した健康管理マニュアルについては「事業者団体の会合に出向き、説明している」と強調した。事業用自動車の総合安全プラン09に関しては、中間年の14年にプランの見直しを行い、「関係者一丸となった行動、構造的な課題への対処」を重点施策に追加した」と説明。モード別の事故の特徴を踏まえて、

トラックでは「各都道府県で、第一当事者の死亡事故件数を1万両当たり『2・0件以下』とすることを目指す」とした。

次世代運行管理・支援システム(スマートタコグラフ)の在り方の検討に向けては、7日の会合で組上に載った、欧州で開発中のインターフェース(接点)「rFMS」の活用について、「関係者で情報共有を深め、(走行データ取得の)

課題解決のための議論を進めたい」と言及。

一方、CAN(コントロール・エリア・ネットワーク)データの活用に関しては「OBD(車載式故障診断装置)ポート(入出力部)は、不法に情報を書き換えられる恐れがあることから『推奨しない』との結論となったが、他のインターフェースを紹介したCANデータ活用の余地はある」との見解を示した。

監査・行政処分に関しては「依然として悪質な違反が散見される。しっかりと監査して厳正に対処する」と明言。14年に発足した事業用自動車事故調査委員会の状況については、「特別重要調査事案が3件、重要調査事案は18件に着手し、3件について報告書を取りまとめた」と報告。要因を分析して、「同種の事故の防止に努めていく」と話した。

(田中信也)